

令和6年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属高等学校天王寺校舎

1 附属高等学校天王寺校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員480人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

467人(男子231人・女子236人) (令和6年4月1日現在)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人、副校長 1人、主幹教諭 1人、教諭 28人(うち、臨時的雇用5人、育児休業1人、再雇用職員2人)、非常勤講師 9人
事務職員 3人(専任1人、事務補佐員2人)、臨時用務員(用務員) 2人

2 附属高等学校天王寺校舎の特徴

本校は、開校以来附属天王寺中学校とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。また、令和5年度より第3期のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受け、現在はその成果を発揮しながら教育研究を継続している。

生徒の自主性を重んじ、多様な経験と活発な議論を通じて、時代を問わず通用する生きる力と、自律的に責任を持って行動する力を育てることを目指している。

3 附属高等学校天王寺校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属高等学校天王寺校舎の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追求する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属高等学校天王寺校舎の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、生徒会・自治会やホームルーム等の集団における、生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属高等学校天王寺校舎令和6年度 重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。また、生徒会・自治会やホームルーム等の集団における、生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を支援する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
1) 互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、「協働」を通じて個々の生徒の力量を十分に発揮させる。	全教員が生徒会・自治会活動(部活動指導、議会・委員会の運営等)に積極的に関わる体制を構築し、分掌として組織的に支援する。校種や発達段階に応じた指導体制を確立し、生徒一人ひとりが成長し活躍できる学校を目指す。<生徒指導部>	生徒会・自治会活動(部活動指導、議会・委員会の運営等)をより活発にし、様々な取り組みを実現することができた。また、校種や発達段階に応じた指導体制も構築し、生徒一人ひとりが成長し活躍できる場面をつくることができた。	生徒会・自治会活動に対する教員の関わりがまだまだ限定的であるため、全教員がより積極的に関わる体制を、中高生徒指導部で連携し、検討していく。	A	部活動は部長に任されている面も大きく、部長によっては部員が大きく振り回されることもあるようです。活動日時の報連相など最低限の指導はどの部でもしていただきたいです。	A	

	<p>中高で教員のニーズに応じた研修を開催し、教員一人ひとりの生徒対応力の向上や学校安全に対する意識の向上に努める。〈健康人権〉</p>	<p>AED講習会や避難訓練の振り返りを通じ、教員一人ひとりの生徒対応力の向上や、学校安全に対する意識の向上を図ることができた。</p>	<p>熱中症予防や捻挫・擦り傷といった軽症の対応、救急者や病院への連絡手順の確認など、放課後や土日休み等における生徒対応について研修を行う必要がある。</p>	<p>B</p> <p>毎年救急車を呼ぶ事態が頻発していると聞きます。熱中症予防に対する意識がとても低いように感じます。救急車を呼ぶ所までの責任しか感じておらず、その先に生死に関わることもあるという責任まで意識が向いていないのではないかと感じます。外での活動には熱中症指数により活動制限をしたり、体育館には空調を設置するなど真剣に検討していただきたいです。</p>	<p>A</p> <p>救急救命講習や様々な機会を通して、教員の危機意識の向上を務めていくよう努力します。体育館の空調については財政的、技術的に難しい面もありますが管理機関の大学と協議を進めます。</p>
	<p>生徒の発達段階に応じて授業立案ができるよう、模倣と省察の過程で理論知と実践知を統一する研究的な学びが実践できるよう研修内容を検討する。〈中高研究部〉</p>	<p>最新の教育事情に関する研修を行った。また、推進日を活用し、教育研究会の中間発表などで、中高全体で授業を検討する場を持つことができた。</p>	<p>実際の授業を見学する機会があまり持てなかったため、相互見学する仕組みを構築する必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>

<p>討論活動、発表活動とそれに至る話し合いや意見交流の機会を担保し、教科の内外で、個人が様々な学びを得ることのできる学習集団を育てる。〈国語科〉</p>	<p>各学年において、協働的な学習課題を設定することができた。その過程で、さまざまな形式（ディベート、ワールドカフェ、少数・多数など）での議論を実施することができた。教科に留まらず、議論できる学習集団の素地を養うことができた。</p>	<p>協働的な学習課題の質を検討し、より高める必要がある。また、他教科とも連携し、生徒集団の議論のあり方を、適宜情報収集していく必要がある。</p>	A		A	
<p>民主的、平和的な社会の形成者として判断する際に必要となる社会的な知識を獲得させ、社会で起こる諸問題に対し多角的な観点から、主体的に判断できる生徒を育てる授業を実践する。〈社会科・地歴公民科〉</p>	<p>民主的、平和的な社会の形成者として必要な知識を多岐にわたって獲得させ、現代社会の諸課題に対して多角的に考察し、主体的に判断できる生徒を育てる授業を実践した。</p>	<p>より深い知識と態度を生徒が身に付けることができるように、教科としてさらなる授業研鑽を行う。また教科として得た知識を教科や文理の枠を越えて、応用できるように、さらなる授業研究を行う。</p>	A		A	
<p>グループワークやペアワークを伴う数学的活動を積極的に行っていく。さらに、授業改善のみならず、パフォーマンス課題を用いた数学的活動を数学科内で収集・共有する。また、それを、学校内外問わず、個人や教科全体としていろいろなところへ発信する。〈数学〉</p>	<p>グループワークやペアワークを取り入れた操作や問題解決を伴う数学的活動を、各学年・各クラスで実施できている。実践した内容については、教育研究会やふだんの授業展覧会、研究集録などで発信し、継続的に授業改善を図ってきた。</p>	<p>今後の課題としては、授業実践の成果をさらに体系化し、教育研究のレベルとして学問的・科学的に検証・発信していくことである。そのために、取り組みのプロセスや結果を定量的・定性的に分析したり、学会発表や論文執筆などを通じて外部へ積極的に情報発信していく。</p>	A	一部の先生はできているが、できていない先生もいる。	A	教科に共有し対応していきます。
<p>実験や観察などを通して「協働する能力」や「科学的に探究する力」を伸ばすための授業実践に取り組む。具体的には、実験の設計そのものや得た結果について協働的に議論することを促す授業展開を積極的に取り入れる。〈理科〉</p>	<p>中高ともに、「どのような方法や道具で調べることができるか」や「得られた実験結果はどういったことを意味しているか」といった発問や議論の時間を積極的に設け、協働学習の姿勢や生徒の思考を促した。</p>	<p>I C Tを一層活用し、班の中での協働にとどまらず他クラスあるいは先輩にあたる生徒による議論の内容を学習の材料にするなど、学習に深みをもたせる工夫を検討していく。</p>	A		A	
<p>失敗を恐れず、仲間と協働してのびのびと表現できるような音楽授業を展開することで、音楽技能を伸ばすとともに、生徒の心理的安全性をさらに高める。〈音楽〉</p>	<p>多様な学びの形態を取り入れ、生徒の持てる力を最大限に引き出す授業づくりに取り組んだ。アンサンブルを通して「協働する力」を育み、生徒自身が自己表現する喜びを実感できる授業を展開した。</p>	<p>心理的安全性を高め、深い学びを実現するための指導の工夫について引き続き検討していく。</p>	A		A	

Can-Do リストに基づいて、パフォーマンス課題の設定や評価について検討する<英語科>	生徒の発達段階を考慮し、スモールステップでの学びを意識した課題を日々の授業等で設定した。パフォーマンス課題に生徒たちが主体的に取り組むことができた。また、評価方法に関して、ルーブリック評価やふり返りの見取りなど多面的な評価を行った。	多様なパフォーマンス課題を設定し、評価方法についてもさらに工夫する。	A		A	
課題解決的な学習を授業を進める中で、協働しながら個々人の技術向上に繋がる指導を行う。ルールや練習方法など自分たちで調べ、実践していく中で自他を尊重する態度を養う。<保健体育科>	他者と協働し、学びあいや教えあいなどを通じて、技術向上につなげることが出来た。各学年における運動技術の習得に向けて、生徒間での話し合いも活発になっている。	自己及びグループの課題に対して、答えの提示や指示でなく、気付きを促すような指導をするなど、課題解決に向けての提示の仕方を工夫していく。	A		A	

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択とその実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
1) 生徒の将来の目標と生徒を取り巻く社会の状況も含めた進路についての意識を深めさせ、その実現に向けた支援を行う。	校務支援システムの円滑で安定した運用をはかるとともに、小中高間の進路用データの円滑な引継ぎを進路指導担当と連携を図りながら支援する。(高)教務規定を現状に合った形に整理し、周知する。特に観点別評価について、各教科の取り組みをもとに文言を整理する。<教務部>	附属学校課と連絡を取りながら校務支援システムを安定して運用することができた。また、進路担当者との連携を図りながら、進路用データの作成の協力を行った。(高)教務規定を整理し、観点別評価についての項目を追記することができた。	観点別評価以外にも、現状と合っていない内容について、検討する必要がある。	A	保護者側からはよくわからない部分です。	A	
	今年度も幅広く情報を提供する。また、進路行事として各学年団と連携して多様な企画を考案する。進路冊子をより良く改変する。<進路指導部>	生徒の進路実現に有益と思われる情報は終礼やクラスルームを通じて配信した。進路冊子も内容を改変することが職員会議で可決された。	進路の冊子の体験談の卒業生の執筆依頼を開始する時期を早める。		A		A

<p>2) 生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。</p>	<p>学校に内在する防犯、災害リスクに対して、生徒・教職員がその要因を共有し、予防的行動を適切に行えるよう、訓練やマニュアルの改善を行う。生徒・教員の減災・防犯意識を高められる安全教育の実現に取り組む。<健康人権></p>	<p>授業外の時間に災害が発生すること想定した避難訓練を実施することができた。また、去年度の反省を活かし、点呼の体制を見直すことができた。防犯訓練においても、不審者対応や取り押さえのプロセスを取り入れ、不審者侵入時における学校全体の動きを確認することができた。</p>	<p>休み時間や放課後に災害が発生することを前提とした避難訓練の実施が求められる。また、管理職不在時における警察・消防との連携、避難民への対応など、有事の際を想定した検討が必要である。防犯訓練についても、池田校舎を範としたより実践的な訓練の実施が求められる。</p>	<p>B</p> <p>安全に登校するという点で、保護者に登下校通知が届くようにしてほしいです。高校では携帯が持ち込みできるようになり通学面では安心できますが、携帯持ち込めない中学の間は心配でした。他の附属校園では実施しているようなので本校でもお願いしたいです。</p>	<p>A</p>	<p>既に使用している「ミマモルメ」にオプションサービスとして登下校通知があります。保護者への周知を徹底します。</p>
	<p>授業を行う前後における運動の場の安全確認は当然だが、授業中も生徒がお互いに健康チェックを行う制度を構築する。<保健体育科></p>	<p>生徒同士で活動中に声を掛け合い、体調確認をすることができていた。場の安全管理ということで走り幅跳びのピットやプールサイドの保全などに着手できた。</p>	<p>走り幅跳びのピットやプールサイドなど修繕できた箇所はあったが、テニスコートの床面のはがれへの修繕に着手できていない。</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	
	<p>生徒が安心して音楽活動に取り組むことができるよう、生徒と教員が協働し、音楽を奏でる空間の環境整備をすすめる。<音楽></p>	<p>掃除当番だけではなく音楽室を使用するすべての生徒に対し、清潔かつ整った環境で音楽を奏でることができるよう意識づけをおこなった。また、生徒自身のアイデアも取り入れ、楽器の置き場所の変更や音楽を主体的に学ぶための環境整備をすすめた。</p>	<p>本校の音楽室には楽器庫がなく、楽器を安全に保管する場所がない状況が続いている。引き続きこの状況の改善を具申し、生徒たちが安心して芸術活動ができる環境を整えていく。</p>	<p>B</p> <p>音楽室だけでなく音楽棟も使って授業をしていますと聞いています。音楽棟はいつ崩れてもおかしくないような建物のように感じます。安全に安心して授業に臨める環境にあるとは思えないため、改善して欲しいです。</p>	<p>A</p>	<p>安全チェックは実施していますが、不安を感じることも事実です。管理期間の大学と協議をしていきます。</p>

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	③ 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
1) 最近の学力観をふまえて、 <u>キャリアキュラムマネジメントを実施しながら各教員と学校全体の教科指導力を高める。</u> また、ICTを活用した学習指導の実践を進め、その効果と課題を探るとともに、教科横断的な視点での指導実践を蓄積、発信する。	ロイロノートやGoogleWorkspaceといった授業支援ツールの運用や運用支援、GIGA 端末やBYOD 端末の運用支援を図り、ICT を活用した授業実践の支援を行う。(中)第2次 GIGA 構想を念頭に置きながら、次期 ICT 端末の運用について、検討を行う。(高)授業における ICT 活用の現状について調査し、その結果をもとに ICT を有効に活用した授業実践について検討する。<教務部>	授業支援ツールの管理運用を行うとともに、生徒用端末の運営支援をはかり、授業環境を適切に担保することができた。(高)ICT 活用の現状について調査し、授業実践について検討することができた。	(高)引き続き、ICT 活用の現状について調査し、検討する必要がある。	A		A	

	<p>生徒会活動や附高祭、音楽祭、百料徒歩などで ICT 活用を実践する。その実践の中で情報機器の取り扱いや情報モラルの指導を行い、生徒の情報リテラシーの向上にむけて適切な支援を行う。〈生徒指導部〉</p>	<p>様々な行事において、ICT をより効果的に活用できるように指導することができた。また、情報モラルの育成のための企画や研修、指導などを行い、生徒が安全に正しく ICT を活用できるよう支援することができた。</p>	<p>ICT 機器のさらなる活用とともに、情報モラルの意識向上も継続して行う。SNS との付き合い方については理解しているが行動として伴っていないと感じられる場面もあったので来年度以降も引き続き情報モラルについての指導が必要である。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>学校管理下にあるタブレットやパソコンでも、あまり制限などかけられておらず、生徒はやりたい放題になっていることが気になります。家庭で管理できるスマホ等はペアレンタルコントロール等で対策をしていますが、学校のパソコンがあるから平気と言わんばかりに、なんでもそちらでできてしまいます。自律して使えるように教育していくことも大事ですが、現状としては理解していても誘惑には勝てないのか、それができていない生徒も多く、外部とも簡単に繋がりトラブルにいつ巻き込まれてもおかしくない状態です。学校管理下でももう少しインターネット制限をかけたり、アプリのダウンロードに制限をかけたりなど検討していただきたいです。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>ICT のモラル教育の面、技術的な面を含めて検討いたします。</p>
--	---	---	--	---	--

	<p>年9回の推進日を活用し、講師による研修を具体化させ、教員が協働し議論する場を設ける。また、授業記録の集約を行い、教科横断や中高連携を促進する。＜中高研究部＞</p>	<p>推進日を活用し、講師による研修を行った。その際、教育研究会の授業プランについて助言を得る機会も設けることができた。また、授業記録フォーマットを作成し、情報共有を行った。</p>	<p>授業記録については、全教科・全教員が日常化する取り組みとはならなかった。記録をつける目的に対して作業の負担が大きかったように思われる。できるだけ負担の少ない形での情報共有の促進が必要である。</p>	B		A	
	<p>文学や古典など、最近の学力観では軽視されがちな分野において、中高連携しながら、その価値を再検討し、適切な指導を行う。＜国語科＞</p>	<p>教育研究会においては中高とも、古典を題材とした授業を発表し、その価値を検討することができた。また、小中高研究部会の中では、文学教材を用いた授業を実施し、系統的な指導のあり方について検討することができた。</p>	<p>引き続き、小中高で連携をとりながら指導を行いたい。ときには中高で担当教員を交換して行う授業なども有効だと考える。</p>	A	<p>その日何を学んだのかを捉えにくい教科ですが、授業を録画したものを配信して下さるので、家で振り返りがしやすく学習にとっても役立ちました。</p>	A	<p>教員にご意見を共有します。</p>
	<p>中高で議論を行いながら協力し、他教科と連携できる社会科の学習内容について検討する。その検討内容をふまえて、教科横断的な視点を持った授業を実践し、発信する。＜社会科・地歴公民科＞</p>	<p>他教科と連携可能な社会科の学習内容について一定程度議論し、健闘することができた。しかし他教科と連携して、教科横断的な授業を実践、発信することはできなかった。</p>	<p>他教科との関りが深い分野について、他教科に対して発信し、情報を共有する必要がある。</p>	B		A	
	<p>教科横断的な学習指導を取り入れた教育内容開発・授業実践を試み、教育研究会で公開する。また、イベントとして「教科横断」を行うのではなく、日常の授業の中で教科横断に触れられる機会があれば、規模の大小問わず積極的に教科横断学習を行う。＜数学＞</p>	<p>教科横断的な学習指導を取り入れた教育内容や授業実践を開発し、教育研究会などで公開している。また、日常の授業の中でも他教科と関連づけられるテーマや活動を積極的に取り入れることで、継続的な教科横断学習の文化が形成されつつある。</p>	<p>他教科との連携を進めるにあたっては、カリキュラムの整合性や時間割の調整、教員同士の指導観・評価観の違いなど、実際に運用していく上でさまざまな課題が顕在化している。そのため、教科横断的な学習を学校全体で連携し実施できる意識づくり・体制づくりが必要となる。</p>	A	<p>一部はできている</p>	A	

	「探究的に学ぶ姿勢」を育むために、理科という枠組みにとらわれず広い視野で情報収集し活用することを促すような授業を実践する。その際、ICT機器を目的に応じて有効活用させる。〈理科〉	中学校では、津波に対する防災の学習で、気象庁のデータや各自治体の防災マップなどの情報を収集させるなど、ICTを目的に応じて有効に活用させた。高等学校では、科学者の視点や姿勢について取りあげ、理科の枠にとられない視点や文献をもとにして考えさせる、教科横断的な実践を行った。	生徒の変容を的確にとらえるパフォーマンス課題やその評価の方法を検討する必要がある。授業の準備から評価までの一連についての教材化を進める。	A	達成状況の中学部分の記載について、高校の取組との繋がりが分からず記載の必要性がわからなかった。	A	わかりやすい表記を心がけます。
	表現領域と鑑賞領域を横断した音楽科カリキュラム開発をすすめ、その効果と課題を探る。〈音楽〉	本研究課題をもとにした授業を中学校・高校両方で実践し、第71回教育研究会にて研究発表をおこなった。新たなタイプの音楽科授業を提案することができ、生徒たちの学びの可能性が広がった。	引き続き本研究課題における指導実践を蓄積し、領域横断することによって学びがどのように深まるのかを分析する。	A		A	
	他教科教員と協同し、教科横断的授業を各教科のカリキュラムをもとにその効果と課題を探る。〈英語科〉	教科横断について見識を深め、日常のカリキュラムの中でそれぞれが取り組むことができた。(高)教科書の題材に合わせて、深い学びに繋がる教科横断的な学びを検討し、各科目で実施することができた。	教材作成などに時間がかかるという課題がみえた。	A		A	
	ICT機器を利用した動画の撮影やチームでの活動を通して、個人・チームの課題を解決しながらお互いに成長し合えるように協働的な活動を取り入れる。生涯スポーツを視野に入れながら他教科と横断的な学習を取り入れる。〈保健体育科〉	陸上競技や器械運動のマットでは動画を撮影し、自らの動きを客観的に振り返り、課題を解決するための時間を作ることができた。アルティメットなどの球技においても試合動画を確認し、作戦や課題を客観的に確認する時間を作ることができた。	ICTの活用によって、運動の改善や自身の運動への気付きの向上はあったものの、運動機会の確保や時間の確保という面で授業の計画に課題が残った。	A		A	
2) 社会の国際化や多様化に対応する力の育成に向け、中高連携および接続をふまえた取り組みを進める。	(中高)キャリアパスポート(生徒が活動を記録し蓄積するもの)について中1~高3で実施。特に高校では高3が初めて3年間実施した学年になる。中高で書式・構成など、実際の生徒や担任の声を聞きながら改良していく。また、中高で引き継ぐにあたってどのように連携できるのかを検討する。〈進路指導部〉	学期や行事の節目で記入するよう指示し、その時間を設けた。	連進生は高I時点で各担任に提出し、面談等で役立てたい。中高の連携部分で、生徒からの提出を必須とする。来年度以降も連携方法については継続して検討する。	A		A	

	<p>体育大会や学芸会、附高祭などの行事を通じて生徒に社会の多様性について考えさせる機会を作り、生徒たちが互いの意見を共有し、尊重し合う機会を作る。また中学と高校で定期的に情報共有の場を設け、生徒の多様性に対応するための効果的な取り組みについて議論します。〈生徒指導部〉</p>	<p>中高とも、様々な行事を通じて、生徒同士が意見を共有し、互いに尊重し合う姿勢が見られた。特に中学校の学芸会や高校の附高祭では、各クラスで考えた演劇や取り組みを進める中で、多様な価値観に触れる機会を多くつくられた。一方で、中高での教員間の情報共有は実施できたものの、中高の生徒同士が互いに関わるような取り組みについては、実施することはできなかった。</p>	<p>行事が終わったあとに生徒たちの意見を共有する場面をより意識的に増やすために、行事の前後で振り返りの機会を設けることを継続させていきたい。 中高の情報共有については、頻度や内容を見直し、共通課題をより明確にし、具体的な実践につなげる仕組みを強化する。</p>	B		A	
	<p>公民的資質の育成という社会科で育てたいコンピテンシーについて共有し、中高で現在の取り組みについての情報共有を密に行いながら、授業見学を積極的に実施する。〈社会科・地歴公民科〉</p>	<p>公民的資質というコンピテンシーについては共有することができた。</p>	<p>中高での情報共有はできたが、授業見学を行うことはほとんどできなかった。時間割を調整するなどして、積極的に取り組んでいく必要がある。</p>	A		A	
<p>3) 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での地域との連携を進める。</p>	<p>「コンピテンシーを軸にした附属天王寺型 STEAM 教育開発」について地域に発信し交流するため教育研究会の実施を広く発信する工夫を行う。集録を通して、本校の研究内容を発信する。〈中高研究部〉</p>	<p>教育研究会には、全国から 200 名程度の参加があり、本校の研究成果を広く発信できた。またその際、従来の教科の公開に加え、附属天王寺型 STEAM の授業や中学校自由研究のポスター発表を公開することができた。研究集録においては、各自の研究成果と教育研究会の報告を掲載することができた。</p>	<p>附属天王寺型 STEAM の授業公開ができたことは大きな成果であるが、授業者にとって大きな負担(企画立案やスケジュール調整等)になっているため、毎年定例的に実施することは困難である。自由研究のポスター発表は担当教員や発表生徒、研究会参加者にとって有益であり、発展的な継続が望まれる。</p>	A		A	
	<p>教育研究会および近附連国語科部会などにおいて、本校の実践を発信し、他校の実践・提言を踏まえ、カリキュラムマネジメントを行い、よりよいカリキュラムを作成する。〈国語科〉</p>	<p>教育研究会および近附連国語科部会において、本校の実践を共有することができた。また、議論の中で、カリキュラムマネジメントについて情報交換を行い、より良いカリキュラムの手がかりを得ることができた。</p>	<p>中長期的な見通しを持ったカリキュラムマネジメントが必要である。</p>	B		A	

	より高次の探究的活動として実験・実習に取り組みさせるような授業を実践し、その内容と分析を教育研究会及び研究集録にて広く発信する。＜理科＞	「資質・能力の育成支援における手法の深化と評価の検討」という中高共通のテーマを設定し、授業実践に取り組んだ。教育研究会では公開授業を行い、研究集録では前後の授業も含めた全容を報告するなど、成果を対外的に広く発信した。	中高理科で設定している「6年間で育成したいコンピテンシー」および「実習・実験の探究のレベル」の指標に照らし合わせて今年度の実践を分析・評価し、来年度の目標設定に繋げる必要がある。	A		A	
	日々の授業実践や生徒が生き生きと芸術活動に取り組む姿をホームページ等で積極的に発信する。 ＜音楽＞	本校の特色ある取り組みや生徒の活躍を、教育研究会や本校ホームページなどを通して広く発信することができた。	本校の教育実践や生徒たちが音楽を心から楽しみ表現する姿を、保護者や地域の方々、教育関係者に向けて積極的に発信を続け、本校が考える音楽科教育の存在意義を様々な形で伝えていきたい。	A		A	
	各学年において令和3年度作成のCAN-DOリストの3年目を迎え、その内容を精査し、各学期末には生徒一人ひとりが課題を設定し、解決できるような授業実践を行う。＜英語科＞	生徒一人ひとりが、課題を設定しながら協同的に学習を進められるように様々な工夫をすることができた。	協同的な学びを意識しながら、個々の学びも深められる授業づくりを目指す。また、Can-Doリストの作成、および活用から3年が経ったため、随時アップデートを行う。	B		A	

学校関係者評価における意見	個別の意見は各項目に反映しています。項目が多いことについての指摘がありました。
---------------	---

